

はしがき

本書は、国際化の時代における韓国経済の諸側面について分析し、韓国経済の現状と直面する課題、今後の方向について検討することを目的としている。

韓国経済は、輸出主導・対外指向型の発展戦略をとってきたので、早くから国際経済と結びついて発展してきた。しかし、ここで改めて韓国経済の国際化を取り上げるのは、今やこの問題が先進国化をめざす韓国にとって越えねばならない大きなハードルだからである。

ここでいう国際化には、三つの側面があると考えられる。第一は、韓国経済が対外投資を含めて国際的に展開する問題、第二は、韓国が国際経済に対し市場を開放する問題、第三は、韓国がその発展段階にふさわしい、国際的に通用するような社会的条件を整備する問題、である。

韓国経済の国際化は、国内の条件の十分な成熟を待つ余裕もなく、いわば「自意半、他意半」という形で進んでいる。それは、韓国の経済発展や対外展開のテンポがそれだけ速いことと、国際経済、とりわけ米国経済が中進国に対してもはや寛容でいることができなくなっていることが背景になっている。本書では、各章でそうした韓国経済の発展と苦悩の実像を描くことに努めた。その混沌の中に、二十一世紀に向けて先進国化を追求する韓国経済の潜在力があるからである。

本書の刊行においては、韓国、東南アジア、米国での現地調査や国内での資料収集の際に、内外の関係官庁、企業、大学等の多くの方のご指導とご協力を得た。心から感謝申し上げます。

一九九〇年三月

編者